



# アクトエノン

NO. 112

名古屋市演劇練習館機関紙

## エッセイ



「演劇にとって  
稽古場こそが  
面白い」

やとみまたち  
(劇作家・作曲家・舞台演出家)

このコロナ禍で演劇人はさまざまなことを考えたと思います。大きな声を出すのがだめ。顔を近づけての会話がだめ。合唱も息を切らせて踊ることもだめ。お客が唾がかかるような距離で役者の熱演を体験するなんてもってのほかで、舞台クラスターなんて言葉も出てきてもう大変。舞台演劇は八方塞がりです。私は稽古や公演ができないなら映画を撮ろうと映画監督の真似事なんかもしましたが、それほど楽しめませんでした。なにより数日で撮影をして編集により多くの時間をかけるというのがちょっと難しかった。2ヶ月間稽古をして本番は3日くらいって演劇の方が肌に合っています。さて、私がコロナによって改めて気づいたのは「舞台演劇は稽古が一番面白い」ということです。私は演出家として稽古場に入ることが多いのですが、演出家は作品のビジョンを持って稽古に臨む。役者は台本を読んでこんな芝居がしたいとやってくる。スタッフ達もやってみたくがある。当然それらには大きなズレがある。さあどうする! ? と始まって、ぶつかり合い、削り合い、尊重をしあって最終的に同じイメージを持って作品を仕上げてゆく。この人間同士の触れ合いのなんと面白いことか。

「上手い役者達と最短の稽古時間で芝居を作りたい」とはコロナ前によく考えていたこと。舞台やプロデュースのあれこれが重なって複数の稽古場を兼ねる状態に疲れていたこともこんなことを思った理由のひとつ。しかしあの春、急にすべての稽古がなくなった。これは大変だと一瞬焦りましたが、補助

金の関係で作曲などの仕事が増えたり、稽古場に行かなくてもいい分、家族と過ごす時間も増えたり、それまでの生活から稽古という時間がスポッと抜けただけで大きくは変わらないのかも……なんて思っていたのですが、この9月、久しぶりに芝居の稽古を始めることができて、稽古場に集まった役者達に語りかけた瞬間、急に胸に熱いものが込み上げました。そして台本を使っただけの役者とのやり取りのひとつひとつ、本番に向けての打ち合わせや会話のひとつひとつに幸福を感じます。こんなに自分は稽古場が好きだったのかと改めて気づかされました。芝居の稽古よりも稽古場自体が好きって人もいるんじゃないかな。ドアを開けるとひろがるクリエイティブに満ちた空気と空間。演劇を始めた頃にそのドアを開けられる自分が誇らしかったことも思い出しました。

時短が続いたためしばらく行っていませんが、演劇の稽古場アクトエノンはあの円筒を見るだけでやる気が出ます。稽古場って本当に有り難い。早く役者の表情をマスクなしで見られる稽古がしたいな。もうすぐでしょうか？



劇団アルクシアター公演  
「ユウエンチの秘密」  
'16年8月  
愛知県芸術劇場小ホールにて



## トピックス

### 「毎年恒例でありますように 夏休み子どもミュージカル教室」

にへいたかひろ (劇作家/演出家/よこしまプロコリー代表)



夏休み子どもミュージカル教室発表会  
「フレンズ アゲイン」  
'21年8月29日(日)  
中村文化小劇場にて

子どもたちが舞台表現に触れて体験できる場を来年こそ作ろう。昨年、中止が決まった時に思ったことです。コロナ禍前、夏休み子どもミュージカル教室は、30人の子どもたちが5日間でミュージカルを作り、上演する毎年恒例の人気企画で、一昨年の本番を見学した時、子どもたちが舞台や表現の面白さ、楽しさに触れられる企画だと感じていました。しかし前述の通り、まだ社会全体が感染対策の知見が少ない時期だったのもあり中止となってしまいました。

そして今年、例年の形のままでの開催は難しく、どんな形なら安全に出来るのか、アクテノンの皆さんと話し合い、30人1組を、10人2組に変え、稽古も各組1日2時間に縮め、演出にも工夫をし、保護者にも見学の

制限の協力をいただくなど、今の時代だからこそその形を作りました。

夏になりアクテノンで稽古が始まると子どもたちは、もちろん苦戦することもありましたが、1回ごとに成長してくれました。本番の会場である中村文化小劇場での稽古になると、成長の勢いはどんどん加速していきます。そして本番、子どもたちはすっかり俳優になり、舞台上には彼ら彼女たちの情熱だけでなく、登場人物たちの思いも溢れてくる上演になりました。終演後、「また来年もやりたい!」と笑顔で話してくれました。これほど嬉しい言葉はありません。子どもたちも、僕も、無事に開催されたからこそこの体験ですよ。毎年恒例、いつまでもそうありますように。

## アクテノン・シャワー

### ■ 第37回芸術創造賞を受賞されて

受賞者

Chang  
(兵藤禎晃)



〈プロフィール〉

道化師。愛知児童・青少年舞台芸術協会理事。愛知人形劇センター理事。日本児童・青少年演劇劇団協同組合加盟。2018年ラストラダカンパニーを創立。代表作「サーカスの灯」は、厚生労働省推薦児童福祉文化財に認定された。

ラストラダカンパニー

検索

受賞コメント

以前からよく知っていましたよ。芸術創造センター1階に飾ってある銅板をよく眺めていましたもん。活動を続ける中で、ここに名を連ねる方々と年々接点が増えていだけで、嬉しくて、いつも誇りに思っていました。

正直自分がいただけるとは夢にも思っておりませんでした。まさかここに自分の銅板が飾られることがあろうとは。

推薦、審査いただきました皆様、そして私をここまで育ててくれた家族・先生方・先輩方・仲間たち、感謝しかありません。

私という道化師の活動が微力ながら社会の役に立てれば、と心から祈り、精進しております。

動画  
配信

受賞者からの喜びのコメント詳細をYouTube「SMILE×SMILE NAGOYA」で動画配信しています!是非ご視聴ください。

こちらから!



芸術創造賞 動画

検索

## アクテノン利用団体紹介

① 発足年 ② 団員数 ③ 主な上演作品/会場 (上演年) ④ 連絡先

### 演劇 ろーまの平日



撮影:林リョージ

麗貴志1人によるコント企画。1人であることの利点である機動力を活かして各種のイベントに参加したり、年1回くらいのペースで客演さんと呼んでのコント集公演を打ったりしています。題材に昔話やマンガのパロディを扱いがち。コント集公演で毎回やっているアニメオープニング再現パフォーマンスには定評アリ。

次回公演は女性キャスト限定コント集をやってみようかと画策中。

①2018年 ②1名

③「ゆかいなコント集 パイレーツのすすめ」/シアターココ('21年) 『V.S.四天王(紅白劇合戦2020参加作品)』/ナンジャーレ('20年) 『「ゆかいな紙芝居 桃太郎・他」(新栄トワイライトvol.32参加作品)』/ナンジャーレ('19年)

④麗貴志

☎090-9895-5803

HP: <http://romanoheizitu.stage.corich.jp/>

E-mail: [romanoheizitu@gmail.com](mailto:romanoheizitu@gmail.com)



編集発行/令和3年11月25日(年4回)

公益財団法人名古屋文化振興事業団 [演劇練習館 [アクテノン]]

〒453-0841 名古屋市市中村区稲葉地町1-47

TEL 052-413-6631 FAX 052-413-6632

※この印刷物は、古紙パルプを含む再生紙を使用しています。



施設からの  
情報を  
ご覧いた  
できます!

「友の会」会員募集中!  
<http://www.bunka758.or.jp/>

